

玉名高等学校 (定時制) 令和4年度 (2022年度) 学校評価計画表

1 学校教育目標
(1) めざす学校像 ア【徳】コミュニケーションを重視し互いに尊重しあう学校 イ【体】自他の生命や身体を大切に作る学校 ウ【知】生徒・職員がともに成長を喜び合う学校
(2) めざす生徒像 ア「至誠」高い志と誠実さを持ち、世のため人のために貢献できる生徒 イ「剛健」真面目さとチャレンジ精神を持ち、問題や課題に立ち向かう生徒 ウ「進取」仲間とともに切磋琢磨し、豊かな知性と感性を磨き続ける生徒

2 本年度の重点目標
本年度教育スローガン 「夢実現・未来への挑戦」～ マナーを身につける ～
(1) 健全な心身の育成 ア 教育環境を整備し、生徒の健康・交通安全教育を徹底する。 イ 体験学習・インターンシップを通じて、勤労観・職業観を育成する。 ウ 特別活動や総合的な学習の時間をより充実させ、豊かな情操と人権を尊重する心を育てるとともに生命の大切さを理解させる。
(2) 学力の向上と進路指導の充実 ア 一人一人の学力や個性に応じた「わかる授業」を工夫するとともに、「玉定チャレンジ」等による個別指導の徹底をし、基礎学力を定着させる。 イ 授業時数を確保し、出席率の向上、特に学校行事等への積極的な参加を促す。 ウ 早くから将来の目標を設定させ、キャリア教育や面談等を通して、就業を促し、夢実現に向かって取り組む姿勢と最後までやりきるといふ諦めない気持ちを育てる。
(3) 地域や保護者に信頼される学校づくり ア 仲間意識を高めるとともに、自己有用感を高め、一人一人に自信と誇りを持たせる教育を実践する。 イ 愛情と情熱を基調とした職員・生徒間の信頼関係に立ち、生徒とともに成長する姿勢で日々の教育実践を行う。また、教育者としての使命感と責務を自覚し、教職員同士が教え合うことで力量を高めていく。 ウ 地域の特性を理解し、中学校との連携や地域資源を活用した教育実践を進める。

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校の組織力の向上	学校組織の円滑な運営と活性化	共通の課題解決に向け、職員間の情報の共有を図り、連携を密にする。	職員会議や各部会、職員連絡会等での情報を周知徹底する。	A	毎日の職員連絡会で情報共有を行い、連携した取組ができた。各部会で綿密な打合せを行うことで円滑な運営に繋げることができた。
		職員研修の充実	人権教育、生徒理解(生徒指導・特別支援)、不祥事防止等を実施する。	・総務部で年間計画を調整し、各係が企画のうえ、全職員で実施する。 ・特性を持つ生徒や課題を抱える生徒に対し適切な支援体制を構築する。	A	年間計画に従って、意義のある研修が実施できた。個別支援計画に基づく生徒理解研修を行うことで、適切な支援が実施できた。不祥事防止に向けた研修やチェックリストにより各自の行動を振り返ることができた。
	安全な学校づくり	施設の安全確保	年間2回安全点検表で実施し、危険箇所をすぐに改善する。	前期、後期に各1回、総務部が企画し、全職員で実施する。	A	年2回の安全点検を全職員で実施し、危険箇所を把握・改善することができた。
		緊急時の安全確保と緊急事態対応の徹底	危機管理マニュアルの周知徹底と安全意識の向上に取り組む。	救急救命講習や防災・消防火訓練等を総務部が企画し、全職員・生徒で実施する。	A	職員で救急救命講習と防災講習は年2回実施し、職員・生徒共に真剣に取り組んだ。消火器の使用法を動画と実践で学び徹底できた。
	業務改善・生徒と向き合う時		・校務の精選等	・衛生委員会に	A	衛生委員会において教

	働き方改革	間の確保のための工夫	により、職員の時間外勤務時間を縮減する。また、職員の担当する校務の平準化を図り、職員の負担感を軽減する。 ・ICTを活用して校務の効率化を図る。	において、情報共有を行い、校務改善等を検討する。 ・校務分掌の見直しや校務の負担の多い職員への支援を全職員で行う。 ・ブチICT研修を実施し、職員のスキルアップを図る。		職員の勤務状況を把握し、教職員間の協力体制を推進するなど担当職員を全職員で支援した。ICTを活用した校務の効率化を図るため、アプリの紹介や研修を行うなど工夫を図った。課題や特性のある子どもたちに対して関係機関や保護者と連携した対応を行うことができた。
学力向上	授業の充実	学習内容の充実	年間指導計画の完成度を高め新教育課程に繋げる。ICT機器など授業推進のための環境整備を行う。	年間指導計画をPDCAサイクルで見直す。ICT機器の活用事例などを全職員で共有する。	A	各教科において日常的にICT機器を活用した授業を行っている。昨年度より生徒の授業評価が6ポイント上昇した。教科ごとに年間指導計画に即した「指導と評価の計画」を作成し、次年度に備えている。
		公開・研究授業の実施	「わかる授業」と「主体的・対話的で深い学び」の実現のために授業改革に努める。	公開授業や研究授業を積極的に行い、助言や意見交換を通じ自己研鑽に努める。	A	10月から11月にかけて公開授業週間を設け、授業改善を目指した合評会や意見交換会等で職員間の情報への共有意識が高まった。
		授業評価の実施	「わかる授業」等の推進やICT機器の活用を評価・検証し、学習内容の充実をはかる。	生徒アンケートや職員間の意見交換をふまえて、授業や年間計画の検証・分析を深める。	A	9月と1月に前期・後期の授業評価アンケートを生徒に実施した。アンケート結果は教科ごとにグラフで確認でき、評価結果を踏まえて、さらなる授業の改善に努め、次年度に繋げていく。
個に応じた学習指導	きめ細かな指導の充実	生徒の進路目標や授業における生徒の到達度を把握し、生徒の個に応じた指導方法の工夫・改善に取り組む。	教科担当者が学期ごとに指導状況を見直し、生徒各自の目標達成に向けて、工夫する。	A	ICT機器の活用及び生徒の特性を理解する会議を年に複数回実施することで、生徒の特性に応じた教授方法について工夫・改善に努めた。その結果生徒の授業評価が13ポイント上昇した。	
キャリア教育(進路指導)	進路意識の高揚	進路目標設定の取組	玉名公共職業安定所と連携し、情報の入手および提供により4年次生の100%の進路先決定を目指す。	進路指導部が企画・立案し全職員で取り組む。	B	玉名公共職業安定所と連携を行い、求人票等の進路情報を生徒及び保護者へ新着情報を多く提供できた。学卒求人1名及び公募制推薦枠の私大合格に繋ぐことができた。今後は、進路未定者へのサポートを継続したい。
			個別面談等を通して就業を促すことで、生徒の	進路指導部が企画・立案し全職員で取り	A	毎月末に調査を実施しており、70%以上の就業率を複数月達

			就業率70%以上を目指す。	組む。		成できている。 アルバイト情報も玉名公共職業安定所と連携し、さらに情報の周知を行いたい。
			個別学習会「玉定チャレンジ」を通して基礎学力向上及び進学指導を行う。また、各種の資格取得を促し、卒業時に履歴書に記載できるように指導する。	進路指導部が立案・募集し各教科担当で取り組む。	A	年間4期に分け募集を行い、基礎学力向上（英語・数学）と資格取得の講座を開講した。意欲的に検定を受検することで複数の資格を所持する生徒や国家資格（ITパスポート）合格者が出た。
	キャリア教育の推進		就職希望者で就業未経験の生徒には、集会やインターンシップ募集を通じて、就業への意識付けを行う。また進学希望者にはオープンキャンパスへの参加を促す。	進路指導部が企画・立案し全職員で取り組む。	A	2名が応募したインターンシップを10月に2日間実施できた。事前指導の成果により事業所からの評価も高く、生徒の満足度も高かった。今後も生徒のニーズに合う事業所開拓を行いたい。 複数名の3年生が夏休みを利用してオープンキャンパスに参加するなど進路意識が高まった。
			進路ガイダンス（専門学校4校招聘）や就職ガイダンス（ハローワークとの連携）を実施し、生徒の意識向上につなげる。	進路指導部が企画・立案し全職員で取り組む。	A	アンケート調査を基に専門学校4校を招聘し生徒に2校の各業界の講義や学校概要説明を7月に実施できた。仕事でオープンキャンパス等へ参加が困難な生徒も多く今後も実施を継続する。 10月には、WEB配信による就職ガイダンスを玉名公共職業安定所と連携し全学年で実施できた。アンケート調査などの結果も踏まえた取り組みを継続して計画したいと考える。
			進路ニュースの発行（年間4回）を通して、最新の進路情報に役立つ内容を精選し掲載する。	進路指導部で作成し、情報を発信する。	A	12月までに第4回進路ニュースを発行しており、定期的に校内での進路行事の取り組みや4年生の進路現況等または進路に役立つ知識などを掲載した。保護者の手元に確実に届くよう郵送を行った。
生徒指導	心豊かな人格の育成	基本的な生活習慣の育成	挨拶、時間の厳守、問題行動の防止に努める。喫煙等の問題行動、盗難事案の発生件数「0」を	全職員の共通理解と共通実践で取り組む。	C	毎日登校指導を実施し、生徒の変化に気を配った。また盗難の未然防止のため教室施設等の具体的な対策を講じることが

			目標に取り組む。			できた。今後、日頃からの自己防衛について習慣化することが必要である。
		交通安全意識の向上	交通安全教室を実施し、交通事故事案の発生件数「0」を目標に取り組む。	生徒指導部が企画・立案し全職員で実施する。	B	身近に起こりえる事故や違反行為に対しての行政処分や刑事処分について学習することができた。 更に、交通ルールやマナーを守る意識を高めていく必要がある。
		自主自律の精神の育成	学校行事に関して、生徒が主体的に取り組めるように、生徒会執行部を中心として、各種行事の企画・運営を充実させる。	生徒指導部と生徒会が企画し全職員・全生徒で取り組む。レクレーション等の企画を生徒が主体性を持って取り組めるように助言する。	B	様々な企画内容に対して生徒間の交流、親睦を深めることができた。学校生活の基盤づくりや、互いを尊重し合う人間関係づくりに繋がっている。
人権教育の推進	「命を大切に する心を 育む」指導 の充実	職員研修の推進	年間計画を示し全職員で研修に参加することにより、人権意識の向上と適切な対応能力を身に付ける。	人権・特別支援教育委員会が立案し、全職員で取り組む。	B	計画通りに行うことができた。復講などを通して教職員全員で共有し、人権意識と対応能力を深めることができた。
		ホームルーム活動や教科指導における取組の推進	ホームルーム活動や各教科における人権教育の取組を計画的に策定する。	人権・特別支援教育委員会を中心に全教科領域で取り組む。	A	人権教育主任が指導案を複数出し、担任を中心に計画を作成して実施した。クラス独自のHRが少ない中で、有意義な時間となった。
		家庭への啓発の推進	人権教育委員会等の案内や定時制保護者会等における講話で啓発に努める。	人権・特別支援教育委員会を中心に企画・立案し学校全体で取り組む。	C	DV防止や児童虐待防止のチラシ、「ラインで相談」のカードなどを保護者に配布し啓発した。
		指導内容の工夫と推進	「命を大切に、心を育む指導プログラム」に基づいて指導を実施する。	人権・特別支援教育委員会を中心に企画・立案し、学校全体で取り組む。	B	年3回の人権教育HRで学年ごとの教材を通して、クラスや自分自身を捉え直すきっかけとすることができた。
いじめの防止等	いじめ問題への対策	いじめが起きないための日常的取組の推進	・生徒がお互いに思いやり、認め合える人間関係を醸成し、いじめを見逃さない体制作りを推進する。 ・いじめ事案の発生件数を「0」を目標に取り組む。	・人権・特別支援教育委員会を中心に企画・立案し学校全体で取り組む。 ・ホームルーム活動でなかまづくりを取り上げる。 ・いじめの早期発見のためアンケートを実施する。担任を中心に日頃から保護者との連絡を密	B	日頃の生徒指導を通じていじめの防止に努めた。アンケートによりいじめ事案を確認し、職員全員で共有している。その上で本人や保護者の聞き取りを行うなど関係職員を中心に速やかに実態把握に努めた。またその後の見守りを継続するなど丁寧な対応を心掛けた。今後も全職員で情報を共有して指導を続けていく。

		職員の資質能力の向上	いじめ、カウンセリング、生徒理解やネットいじめ等に関する校内研修を推進する。	人権・特別支援教育委員会を中心に、学校全体で取り組む。	B	生徒理解研修の他、毎日の職員連絡会で生徒の状況を報告し情報共有を行っている。気になる生徒については意識的に声かけを行い、関係部署と担任が対応策を話し合った。
		家庭への啓発の推進	・人権教育講演会等の案内や定時制保護者会等における講話で啓発を進める。 ・いじめ発見シートの説明を行う。	人権・特別支援教育委員会を中心に企画・立案し、学校全体で取り組む。	C	いじめ発見シートは年度内に配付予定である。昨年度は保護者向けにスマホ依存について講話を行ったが、実施の必要性を感じた。
特別支援教育	特別な支援を必要とする生徒への適切な対応	個々の生徒の正確な実態把握と支援	支援の必要な生徒に対して支援計画、指導計画を作成し活用する。各種研修への参加や校内研修を推進する。	教頭、特別支援教育コーディネーターが中心となり、連絡会等を利用し、困り感を持つ生徒を全職員で支援する。	B	支援の必要な生徒の情報については、連絡会等で共通理解を図るなど、特別支援計画に基づいた支援体制が整った。
保健環境指導	健全な心身の育成	心の悩みを持つ生徒の把握	担任や各部と連携し、面談の機会を増やす。	保健環境部が企画・立案し全職員で実施する。	B	面談週間における時間確保や、必要に応じた面談が実施できている。
		健康診断後の治療率向上	健診結果を基にした自己の健康保持増進や治療の促進を行う。	保健環境部が企画・立案し全職員で取り組む。	B	健康診断が終了後、事後措置を行ったが治療の促進には課題が残った。
		啓発活動の推進	感染症予防や環境問題を含む保健だよりを年5回発行する。	心のケアの方法や生活習慣調査結果などを盛り込み定期的に発行する。	C	保健だよりは3回の発行になったが、生徒集会等を通じて、感染予防等の啓発を行った。
		外部講師による講演会の実施	薬物乱用防止教室（年1回）や性教育講演会（年1回）を開催する。	保健環境部が企画・立案し全職員で実施する。	A	外部講師による講演会は食育、薬物乱用防止教室、性教育を実施できた。
	環境美化と環境教育の推進	環境美化の推進	職員清掃日（月曜）、定期清掃日（木曜）を定める。	保健環境部が企画し全職員・生徒で実施する。	B	職員清掃は定着しているが、週一回の生徒清掃の定着に課題がある。
学校版環境ISOへの取組		学校版環境ISOを周知し、実践できるように工夫する。	・保健環境部が企画・立案し全職員・生徒で取り組む。 ・生徒保健委員会で牛乳パック等を回収しリサイクルに出す。	A	学校環境版ISOについては、生徒たちの意識にも定着し、分別回収ができています。牛乳パックのリサイクルも継続できている。クロームブックを活用してペーパーレス化を推進し、ごみの削減に努めた。	
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	情報発信	情報の発信	学校HPの充実	学校HPの行事ごとの更新と内容の充実に取り組む。	A	学校行事終了後速やかにHPの「定時制ブログ」で生徒の様子を紹介することができた。

連携の強化に向けた取組	保護者との連携	保護者会（7月）の実施を検討して、内容を工夫・改善し、出欠の回答ならびに参加率を向上させるよう啓発する。	総務部が企画・立案し全職員で取り組む。	C	今年度は保護者会への出席状況を鑑み、開催せず、プリントでの周知に代えた。本会の意義や開催時期、事前の呼びかけについて改善していきたい。
	地域との連携	保護者とともに思春期の生徒への対応や情報モラル教育等についての研修を実施する。防災型コミュニティ・スクールの活動をおして、地域との連携を深める。	・総務部、生徒指導部、情報管理部が連携して計画を行い、7月には保護者あてに文書で周知する。 ・消防署と連携して防火訓練を実施するとともに大規模災害時の連携・対応マニュアルを確認する。	B	保護者との個別連絡を密にすることで、生徒への対応を行ってきた。防火火訓練では、全生徒に水消火器を試射させ、手順を確認した。また全体会では大規模災害に備えるための学習を、クイズやソフトを利用しながら学習させることで啓発を行うことができた。

4 学校関係者評価

- (1) リカレント教育の観点から学校に行くことが目標ではなく、将来やりたい仕事から逆算してどのような勉強が必要なのか、どのような経験が必要なのか、考える習慣をつけることが大切ではないか。地域とのかかわりの中で学び、経験することで本物の機会に触れることが重要ではないか。このように心掛けることで、学校で勉強することがひいては地域貢献に繋がるのではないか。
- (2) 学校評価アンケートに関するグラフのまとめ方について、質問項目が多いので厳選すること、グラフの色を工夫して見やすくすることで、成果と課題がわかりやすくなるだけでなく、膨大な資料作成の軽減につながり、ひいては働き方改革になるのではないか。
- (3) 全日制・定時制・附属中学校があるということは、他校にはない強みだと考える。この特長を生かした取り組みができるのではないか。
- (4) 定時制においては、多様な生徒が学んでいる中で様々な取り組みをされ、成果をあげている。玉名市の広報誌において定時制の取り組みを発信することで協力したい。
- (5) 地域連携（保護者との連携）の項目において評価が低い、学校と保護者との連携と共通理解は必要不可欠である。よって、参加率の向上に向けて工夫をお願いしたい。

5 総合評価

【学校経営】

毎日の登校指導や捕食指導で生徒の変化を見逃さない指導を継続しながら、特別支援計画に基づく生徒理解研修を実施することで、個に応じた適切な支援体制を構築することができた。また生徒指導や進路指導、生徒会の運営について担当者任せにせず、全職員で支援する協力体制を推進することができた。

【学力向上】

クロームキャスト等の機器の導入、ミニICT研修を実施したことで、ICTに関する職員のスキルアップとともに、電子黒板の利活用を促進することができた。個に応じたわかる授業の展開につながり、生徒による授業評価が昨年より6ポイント上昇した。

【キャリア教育】

就業率70%以上を目標とし、概ね達成できている。学校内外での生活を通して、感じ、学んだ貴重な体験を通して『働きながら学ぶ』を実践できた。また、『玉定チャレンジ』の取り組みで、学力向上と資格取得を目的とした講座を開講したが、受講した生徒は意欲的に取り組んだ。国家資格である『ITパスポート試験』や全商情報処理検定試験ビジネス情報部門1級の合格者が出た。

【生徒指導】

毎日の登校指導、健康観察、挨拶指導、交通指導に努め、生徒に声をかけながら変化を見逃さない指導を心掛けた。交通違反や交通事故は発生しなかったが、特別な指導を要する事案が1件発生した。

【人権教育の推進】

年間計画に従った職員研修や復講などを通して、全職員で情報共有を行い、人権意識と対応能力を高めることができた。また、ホームルーム活動では、人権教育主任が指導案を複数出すことで、生徒の発達段階に応じた取り組みができた。

【いじめ防止等】

1学期の心のアンケートでいじめを1件認知した。本人や保護者に聞き取りを行い、速やかに実態を把握した。全職員で情報共有を行い、見守りを継続し丁寧な対応を行った。2学期の心のアンケートでは解消しているが、見守りを継続して対応する。

【特別支援教育】

個別支援計画に基づいた支援体制が整った。生徒理解研修や毎日の職員連絡会で生徒の状況を的確に把握し共通理解を図るとともに、個に応じた適切な支援を全職員で行う。

【保健環境指導】

毎日の健康観察や教室及び共有部分の消毒が実践できている。また外部講師を招聘し、食育、薬物乱用防止教室、性教育を実施することで、生徒を啓発することができた。学校版環境ISOについては、分別回収やリサイクルの意識が定着してきている。

【地域連携】

学校行事終了後速やかに『定時制ブログ』を更新し生徒の様子を紹介するなど、情報発信を心掛けた。また、消防署と連携した防消火訓練を実施でき、水消火器の使用法を全生徒に実施することができた。

6 次年度への課題・改善方策

(1) 配慮を必要とする生徒への対応

個別支援計画に基づいた生徒理解研修等を通して、職員の共通理解は深まっているが、個々の生徒に対する適切な支援には課題がある。特別支援教育への理解を深めるための職員研修やユニバーサルデザインの視点に立った授業を一層工夫していきたい。

(2) キャリア教育のさらなる充実

1年次生から就職・進学ガイダンスの実施やインターンシップ等の就労体験、玉定チャレンジ等への積極的な参加を促すなど、生徒の進路目標実現に向けた計画的な取り組みは実践できている。しかし、個々の生徒のキャリアデザインの構築に課題がある。DVD教材を活用するなど働くことに対するさらなる意識付けとともに、資格取得を通して将来に必要な力を考えさせ、外部機関と連携して高度資格取得に挑戦させるなど個に応じたキャリアデザイン構築を目指したい。

(3) 保護者との連携

日頃から無断欠席や学校での小さな変化や様子などについて、担任は保護者と電話連絡や家庭訪問をするなど連携し、丁寧な対応を心がけている。しかし、昨年度からの課題である保護者会への出席率やアンケートへの回答率は低く、改善できなかった。学校と保護者が共通理解を持つことは重要なので、安心・安全メールを活用した早めの案内や送迎で来校された際の情報交換など、できるところから改善する。